



東町エリアの景観の特徴

A 直線街路を軸としたまちの骨格

A-1 見通しの良いまちなみ景観



直線の街路は視線が遮られることなく上空も開けていて開放感があります。各時代に建てられた家々が全体として調和し、すっきりと落ち着いた雰囲気となっています。

より良い景観形成へ

建物の高さや屋根の形状、色彩などを周辺と調和させ、まちなみ景観の向上に取り組みましょう。

A-2 アイスストップとなる常夜燈



曲手の屈折点は、直線街路の視線が集中する、アイスストップとなっています。

より良い景観形成へ

常夜燈は道路端へ移設されて見えにくくなっているため、アイスストップとしてより見られやすくする工夫をしましょう。

A-3 分断された参道



参道は、国道や鉄道で分断されましたが、社寺林がある山腹の緑と一体となった景観は、ほぼ往時のままです。

より良い景観形成へ

旧東海道からの鳥居や山並みへの眺めを妨げないように建物などの高さに配慮しましょう。

旧東海道に沿って、塀や生垣などでまちなみの連続性が保たれています。川や鉄道沿いの道には、蔵や田畑の景観が広がります。

A-4 川沿いの生活路



城山川沿いの生活道は、勝手口にとりつけられた橋や畑など生活と川の関わりを感じる景観が広がります。ほど良い規模の川と生活路。人が安心して歩ける道です。

より良い景観形成へ

くらしと密接な関わりのある川や道を中心に、旧東海道沿いとは趣きの異なる、くらしの景観を継承しましょう。

B 統一感があり落ち着いた住環境

B-1 塀や生垣で保たれた連続性



塀や生垣などにより、まちなみの連続性が保たれています。塀からは庭木のみどりも見え、まちなみに潤いを与えています。

より良い景観形成へ

建物の高さや、屋根の色や形状は、周辺に調和させ、まちなみの連続性を高めるよう配慮しましょう。

B-2 新しいまちなみ景観



新しいデザインでも平入り屋根や中二階に見える外観など町家のデザインを取り入れることで、多様な中にも統一感のあるまちなみ景観に寄与しています。

より良い景観形成へ

新しい住宅でも宿場町の風情を感じられるデザインを積極的に取り込み、まちなみ景観の向上に取り組みましょう。

東町エリアで景観のスパイスとなっているポイントを集めました。実際に探してみても、全体の景観にどのような効果や印象を与えているか考えてみましょう。

景観のスパイス

東町エリア



①秋葉山常夜燈



位置は変わりましたが、深く削れた石が寛政 7 年（1795）の歴史を伝えます。

②謎の石柱階段



階段に利用されていたと推測される石柱はつくられた謎を問いかけてくるようです。

③川への降り口



勝手口から川へと下りるための石段は、野菜を洗うなど城山川（文さ川「ぶんさがわ」または辰巳屋川「たつみやがわ」）と生活との深い関わりを伝えています。石段には、様々なタイプがあって目を引きま

④川沿いの長屋門



川沿いの道では、歴史を重ねた長屋門が見られ、風情を高めています。

⑤蔵



川や鉄道沿いの道からは蔵のある景観が見られ、まちの歴史を感じられます。

⑥明星院の生垣の門



参道から見るとイヌマキの生垣が額縁となって本堂を引き立てています。

⑦明星院裏の段々畑



段々畑に見られる石積みの種類や積み方には、地域性が表れています。

⑧栗生人形工房



木造三階建ての歴史的なまちなみに調和する外観は、都市景観環境賞を受賞しています。

⑨徳性寺へ抜ける視線



山の緑とともに徳性寺が正面に見える、気持ちの良い景観です。

⑩イヌマキの生垣



連続する生垣が、まちなみに潤いを与えています。

⑪屋敷のみどり



屋敷内の刈り込まれたカイズカイブキがまちなみの風格を高めています。